

平成25年 1月31日

松阪市議会  
議長 中森 弘幸 様

報告者 西村 友志

## 視 察 報 告 書

標記の件について、下記のとおり行政視察を行いましたので、その内容等を報告します。

### 記

1. 視察の日程 平成25年1月15日(火)～1月17日(木)
2. 視察先 岡山県真庭市  
島根県浜田市
3. 参加者 公明党：西村友志  
あかつき会：田中祐治、小林正司、堀端 脩
4. 視察項目
  - I. 岡山県真庭市 1月 15日 (火)
    1. 観光都市づくりについて
    2. 勝山のまちづくりについて
  - II. 島根県浜田市 1月 16日 (水)
    1. 議会改革について
    2. 市議会ホームページについて
    3. 今後の両市における観光行政について

## 1. 岡山県真庭市

### 真庭市の概要

平成17年3月31日、5町4村（勝山町、落合町、湯原町、久世町、美甘村、川上村、八束村、中和村、北房町）の合併により誕生した。

岡山県北部、中国山地のほぼ中央に位置しており、東西に約30キロメートル、南北に約50キロメートル、総面積は828平方キロメートル、県下で最も広い自治体で、人口は49,820人、世帯数は17,849世帯となっており、高速道路のICは5カ所ある。

### 1. 観光都市づくりについて

#### (1) 真庭市の観光

平成22年に観光客数が400万人（松阪市は240万人）を突破している。今後も500万人達成に向け、観光連盟などの関係団体と連携を図り、観光客誘致への取り組みを推進している。

#### (2) 真庭市の観光客の推移

- ・平成18年度 358万人
- ・平成19年度 382万人
- ・平成20年度 365万人
- ・平成21年度 386万人
- ・平成22年度 405万人
- ・平成23年度 426万人

#### (3) 観光客誘致策

- ・真庭市が1人当たり500円から1,000円を補助している。
- ・平成24年度は250万円の予算で4,000人が宿泊している。

### 2. 勝山のまちづくりについて

勝山は出雲街道の要衝として繁栄し、土蔵、白壁や格子窓の古い町並みが残ることから、昭和60年に「町並み保存地区」に指定された。

当時は、観光客の姿は全くなかった上、住民も町並み保存に対して関心は薄かったが、行政の主導で観光施設を中心とした基盤整備と民家の修復を行った。

その結果、今では昔ながらの酒蔵、旧家、武家屋敷といった建物に加え、古民家、蔵などを活用した工房、カフェ、ギャラリーなどが軒を連ねている。

現在は、伝統を残しながらも、今の時代の新しいセンスも巧み取り入れる地域づくりは全国から注目さ



れ、観光客だけでなく、視察としても訪れている。

また、「男はつらいよ」の最後の作品となる「男はつらいよ 寅次郎 紅の花」で、この通りが舞台となった。

#### (1) 民家の修復

決して順調なものではなかったが、民家の修復に限った補助金を創設し、徐々に町並みの整備を行ってきた結果、観光客の姿が見えるようになってきた。

#### (2) 地区住民有志で「町並み保存地区を応援する会」を結成している。

- ・自分たちが住むこの地区が元気になる様何とか応援したい。
- ・自分たちが住みよい町は、観光客にとって良いはずである。
- ・自分たちにできる事はなんだろう。

#### (3) 自分たちの手で活動拠点づくり

空き家だった旧商家を借り受け、夜ごと集まって修復し、無料休憩所「頼山亭」をオープンさせた。

#### (4) のれんの町づくり

各店等の前にのれんを掛け、まちづくりを進めてきたことにより、勝山の新たな顔となり、今では「のれんの町、勝山」と呼ばれるようになった。

#### (5) 平成21年度 都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を授賞

住民協議会でつくる「かつやま町並み保存事業を応援する会」は96年から土産物店や民家の軒先にのれんを掛ける活動（のれんの町づくり）を広げ、無料休憩所も運営。また、市が約700メートル区間で電線類の地中化工事を行った。

### 3. 所感

この度の真庭氏の視察では観光都市のまちづくりを中心に勉強させていただいた。勝山の街づくりでは、出雲街道として古より繁栄した街道を中心に町づくりに成功している。その要因はもともとの歴史文化の奥深さはあるものの行政と市民が一体となって協働の中、築きあげてきた経緯は感動に値した。約1キロにわたる街道を白壁や蔵を中心によみがえらせており町並み形成として昔の面影を忠実に再現している。

住民のアイデアも斬新で染物店の発想でのれんを利用した事業で年間を通じ一体感のある町づくりに成功しており素晴らしかった。また雑壇を各店が軒先に展示し、夜のろうそくの明かりで幻想的な雰囲気を作り、観光客の集客に貢献している。全国的にもまつり事業をしているところはあるが勝山がそのはしりといわれている。

行政、市民・事業者の三者が協働し観光都市づくりを担う中核機能を設置し、まちづくりと観光がどのように位置づけられているかを根本から整理し、それぞれの課題に応じた取り組みを支援しなければならないと考える次第である。

今後の松阪市における観光としての町並みづくりにおいて大いに勉強させていただくことが出来た。

## II. 島根県浜田市

### 浜田市の概要

平成17年10月1日に、浜田市、金城町、旭町、弥栄村、三隅町の5市町村が合併し、新「浜田市」が誕生した。

山などの美しい自然と、石見神楽やユネスコの無形文化財遺産に記載された石州半紙などの伝統文化、海水浴場、スキー場、しまね海洋館アクアスなど豊かな自然を活かした観光資源を有しており、また、高速道路、港湾などの都市基盤や大学、美術館をはじめとする教育文化施設が充実した、人と文化と自然の調和のとれた島根県西部の中核都市である。

市域は、東西46.4キロメートル、南北28.1キロメートルで、面積689.60平方キロメートルで人口は58,411人、世帯数は26,759世帯となっている。

### 1. 議会改革について

#### (1) 積極的な情報提供

##### 1) 議長交際費の公開

平成18年4月から、HPに議長交際費の支出基準、支出内容、金額等を掲載している。

##### 2) 政務調査費の公開

平成18年度分から、HPに用途や収支報告書、すべての領収書の写しを掲載したことで、マニフェスト実行委員会主催のマニフェスト大賞の審査委員会特別賞（議会部門）を平成20年11月に受賞している。

（政務調査費を1円からネットで公開している。）

##### 3) 会議の公開

平成19年4月から、原則としてすべての会議を公開とし、会議予定をHPに掲載している。

##### 4) 視察状況の公開

平成19年5月から、委員会や会派、個人の視察報告書をHPに掲載している。

##### 5) 議案に対する賛否の公開



平成24年12月定例会分から議員個々の議案に対する賛否をHP及び議会だよりに掲載している。

(2) 広聴機能の充実

1) 議長なんでもメール

平成18年10月から開設。議長が必ず目を通し回答している。

2) 市民アンケートの実施

①平成22年8月 議会報告会開催に向けての市民アンケート（981通の回答）

②平成24年8月 議員定数に関する市民アンケート（3,118通の回答）

(3) 報告会、説明会の開催

1) 議会報告会のフロー

① 議会報告会開催前の準備

**【議会基本条例】 第23条**

議会は、議会活動に関する情報を積極的に公開するとともに、市民の意見を把握し、議会活動に反映させるため、議会報告会を開催するものとする。

**【議会報告会規程】**

少なくとも年度ごとに1回開催する。

区域ごとに開催する。

次のような内容を報告する。

- ・ 予算その他議案の審議・審査に関する事項
- ・ 議会活動に関する事項
- ・ その他議長が必要と認める事項

**【協議内容】**

議会運営委員会

- ・ 報告会次第
- ・ 開催日程
- ・ 周知方法
- ・ 常任委員会から提示された出席議員と班編成の可否

各班ごと

- ・ 当日の役割分担

常任委員会

- ・ 報告会出席議員
- ・ 報告会の班編成

\* 協議した結果は議運へ渡す

**【報告会において使用する資料の検討・決定】**

議長団、議会運営委員会の正副委員長、各常任委員会の正副委員長が協議して決定。  
このほかに必要な資料があれば、議長の承認を得た上で用意する。

② 報告会開催当日

- ・開催にあたっては、全議員で調整・連携し、対応・処理する。
- ・議長団は班に属さず、いずれかが常時どこかへ出席する。
- ・市民に対する答弁は原則として全員で行うものとするが、専門的な内容に触れる場合には各委員会の委員長等、詳しく知るものが回答する。

**【報告会 90分程度】**

1. 開会あいさつ（班代表者）
2. 議会報告（報告者）
3. 報告に対する質疑応答
4. 意見交換会
5. 閉会あいさつ（班代表者） \*記録担当者がメモ等を取る。

③ 報告会終了後

**【記録担当者】**

報告会の要点を記録した報告書を作成し、速やかに議長に提出する。

**【議長】**

市長その他執行機関において処理すべき要望等が提出された場合は、書面で市長に報告する。

(4) 報告会、説明会の実績

- 1) 平成23年9月に、議会基本条例の制定に向け市民から意見を聴くための市民説明会を3日間、9会場で実施した。(約110名の参加)
- 2) 平成24年5月に、議会基本条例に規定した議会報告会を5日間、市内10カ所で開催した。(約250名の参加)

(5) 重要案件の意見交換会

平成24年12月議会中に、議会基本条例に規定した重要案件の意見交換会実施のための規程や実施要領を策定した。案件については、常任委員会から案を出し、最終的に議会運営委員会において決定した。

- 1) 重要案件の意見交換会のフロー
- ① 各常任委員会（予算審査委鼻会を除く）議会運営委員会（要協議）において、市政に関する重要と思われる案件について、テーマをあげる。

- (例)・総務文教委員会～自治区制度、給食センターの統合についてなど
- ・福祉環境委員会～火葬場の建設、上下水道の統合についてなど
  - ・産業建設委員会～水産振興についてなど

② 各委員会からあがってきたテーマを議会運営委員会で協議し、最終決定した。

(例)・自治区制度、まちづくり施策について

- ・公共施設のあり方について
- ・教育問題について
- ・上下水道問題について
- ・火葬場整備計画について
- ・中山間地対策について
- ・浜田商漁港の振興について

③ 重要案件の意見交換会の開催申し込み

④ 議会運営委員会で協議の上、開催を決定する

- ・申込書の要件審査
- ・議会側の対応者決定（委員会）の振り分け

⑤ 重要案件の意見交換会を開催

【基本条例前文】

多様化する市民の意見を的確に把握し、市政に反映させるため、自由討議や意見交換等を重視した政策形成機能の更なる充実が求められている。

【基本条例第22条第1項】

議員と市民が自由に情報及び意見の交換を行うために開催する。

⑥ 議会としての政策提言・政策立案などにつなげ市政へ反映させる。

(6) 議会の運営体制の改善

1) 常任委員会開催日の変更

平成18年6月定例会から、それまで同時開催としていた常任委員会を、1日1委員会の開催に変更した。これにより他の委員会に所属する議員が委員外議員として出席可能となる。

2) 質問方式の充実

平成18年6月定例会から、個人一般質問については従来の「一括質問一括答弁方式」を改め、対面式による「一問一答方式」を導入した。

このことにより、傍聴者及びCATV視聴者に、より分かりやすく、かつ議論の活性化、質疑と答弁の正確度を高めることとなる。また、平成20年3月定例会から会派代表質問を導入した。(市長の施政方針に対するもので、3月議会のみ実施)

3) 所信表明会の実施

平成19年11月から、正副議長の選挙を実施する場合の所信表明会を実施している。

#### 4) 政策討論会実施に向けた環境整備

平成24年6月議会で、議会基本条例に規定した政策討論会を会議規則に位置付けるとともに、政策討論会規程を制定し、実施に向けた環境整備を行う。(未実施)

#### (7) 議員定数について

平成24年12月議会において、現行の定数28名を24名にする議員定数条例の改正を議決した。次期改選期(平成25年10月)から適用する。

## 2. 市議会ホームページ

### (1) ホームページ掲載のポイント

#### 1) 迅速さ

- ・決定事項はできるだけ早く掲載。
- ・結果はもちろん、これからの取り組みを掲載。

#### 2) 正確さ

- ・誤った掲載のないようにチェック。
- ・変更があった場合は素早く・正確に。

#### 3) わかりやすさ

- ・文字ばかりではなく、視覚的に。
- ・議会日より以上に詳細な記事を掲載。

## 3. 今後の両市における観光行政について

浜田市に、到着するなりホームにおいて浜田市役所の観光行政の担当者や観光ボランティアガイドの会に所属する市議会議員さんや代表の斉藤晴子会長等約10名の方が、ようこそ浜田市への横断幕と恵比須様のユニキャラと共に盛大なお出迎えを頂きました。議会改革についてと市議会ホームページについての説明後、今後の両市における観光行政のテーマについて浜田市観光ボランティアガイドの会、斉藤晴子会長より松阪市と浜田市の200年に及ぶ、駅鈴が結ぶ縁についてお話を頂き早速そのお話に元づいて浜田の町をご案内頂きました。



蒲生氏郷公が松阪城を築城途上で会津若松へ移った後、城や城下を完成させた古田重治が元和5年(1619年)に浜田藩に移り浜田城と城下を作り浜田周辺の基礎を整え、後に12代藩主の松平康貞公は、江戸時代後期に国学者として活躍をしていた本居宣長の講義を聴



き崇拜すると共に、鈴が好きな宣長の為に隠岐島に伝わる古代の駅鈴のレプリカをわざわざ作らせ贈りました。現在その駅鈴は、本居記念館に収められ、又、大きく陶器にて作られた駅鈴が松阪市のシンボルとして、松阪駅前には備え付けられております。

その様な長い歴史の中での関わりを下に、松阪市と浜田市の友好関係がより太いパイプとなろうとしています。

#### 4. 所感

浜田市議会では、議員定数等議会改革推進特別委員会を中心に、「開かれた議会、見える議会」となるよう、積極的な情報提供や広聴機能の充実等を図るとともに、議員同士で活発な意見交換が行われるよう、議会内の運営体制の改善などに取り組んでいる。

昨年は松阪市においても議会基本条例を制定し、本年より改革元年として報告会や説明会の実施は新しい取り組みとして積極的に進めていかなければならない。一方では初めての経験で不安な要素も多々ある。今回の浜田市の取り組みを勉強させていただき、その点において大変参考になり勇気づけられた次第である。

公として初めて松阪市議会として浜田市を訪問致しました。そこでの視察を通して浜田市様の温かい、お招きの中に観光行政に対しての力の入れようを感じると共に、今後の松阪市とのよき友好都市関係を築きあげようとの思いが、強く感じ取れました。

官民挙げてのお迎えは、夜の懇親会まで続き副市長をはじめ担当職員や市議会議員そしてボランティアの方々等15名が、我々4名と今後の両市における友好関係を夜遅くまで語り合いました。

今年の宣長祭りでの石見神楽お披露目に対しての来訪の話も聞き、今後の都市間交流の発展に期待をもつと共に、松阪市もより積極的な交流に力を注ぐべきであると感じた次第です。